

出島昇の『金のなる木』<sup>2009年10月15日(木)</sup>  
資産形成レポート kane 第20号

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。  
【3～5年で資金3倍化を目指して】

■■ 前号の短期の買チャンス成功 — 次は利食いを実行 ■■  
… 買推奨10銘柄ほとんど買いゾーンまで下げて反発 …

前回の10/1(木)号で、9/28(月)に▲256円の10009円と約2ヶ月近い10100円～10500円台のもみあいも下られし、レポート発送当日の10/1(木)に▲154円の9978円と1万円を割れて引けたので、翌週のSQに向けて安いところは買いとしました。その場合、NYダウ次第のところはありますが、日経平均の1回目の買いを9700円～9800円、さらに9500円割れも想定して買い下がり方針としました。結果的には10/5(月)に▲57円の9674円と26週移動平均線を切って引けたものの、NYダウが急反発となったこともあり上値の重い展開ながら、10/6(火)は△17円の9691円、10/7(水)は△107円の9799円となって3日間ほど1回目の買いチャンスがありました。10/1(木)の時点でこの日の終値より日経平均の下げに応じて①と②の2つの買いポイントを示して合計10銘柄の買推奨を行ないましたが、ほとんど①の買いポイントまではいって反発となって利益が乗ってきており、ここからは買いを考えるのではなく買った銘柄をどこで利食うかを考える段階になってきます。今回の上昇は、日経平均は26週移動平均線を切るところまで下落したものの、NYダウが予想外の反発となって再び高値更新となっているため、アメリカ株式の高値警戒感が高まりますので、短期の利益確定(1～2週間の間に)が必要となってきます。

本来この資産形成レポートは、底値圏で買って長期保有するか、当面の天井圏で利益確定することをアドバイスするものですが、今回は7/10(金)の6銘柄推奨の時よりも利益確定が早くなります。それはNYダウの相場の位置の問題で、前ははまだ上昇途中で、そこからNYダウが大きく上昇したことで、ほとんど買い目標まで到達しました。しかし、今回はNYダウは高値圏にあるとみているからです。もちろん、強気の見方としては企業決算が予想以上であるという見方から、NYダウは1万ドルをこえて大きく上昇するという見方もありますが、現在のNYダウの上昇の背景を考えると“総強気”は突然売りに転換する経験的事実を想定しておくべきでしょう。その1つの見方として、ドル安によって金相場が高値更新して株価も上昇しているという現象です。歴史的には株価の暴落で資産の逃避先として金の現物が買われるというのがふつうですが、NYダウも高値更新となっています。

— NYダウは要注意 … 金相場が高値更新している背景を考える —  
＜金は万能の世界貨幣＞

第5号(3/5)で、「資産づくりの株式投資の考え方」というテーマでコメントしましたが、その中で「金を買ってみたい人は、産金株の代表である住友金属鉱山(5713)を買え」としました。その時、金についてこう述べました。

-----第5号(3/5)より抜粋

『金は人類の長い歴史の中で、当初は物々交換の中から何とでも交換できる万能の商品すなわち貨幣として生まれてきました。そして、1914年までは「金本位制」といって金が人類の価値の基準でもありました。それぞれの国は金に裏付けされた通貨量しか発行できませんでした。なぜ多くある金属の中で金だけがそのような万能の商品としての通貨という位置をもつことができたのでしょうか。原始時代は商品交換の場によくあられ、見た目に美しい、持ち運びに便利、分割できるなどの理由から誰もが喜んで受け取るものとして自然と金が通貨の役割をもつようになりました。

科学的に言うと金はどのような化学反応によっても変色したり消耗したりしない性質をもっています。金は1000度で溶解し他の物質と分離して純金として取り出すことができ、そのグラム数から算出される価格は世界共通となります。金はその特性として展性、延性にすぐれており工芸品には欠かせませんし、さらに鈴や銅に次ぐ高い電気伝導性があるため、半導体の配線やメッキに最適であり、ハイテク産業にはなくてはならない鉱物資源の側面もあります。「都市鉱山」と呼ばれているものは、都会で眠っているオフィスや個人の使用済みの携帯電話やパソコンの基板を大量に集め、それを溶かしてその中に使われていた金を取り出すことなのです。つまり都会に金鉱脈があるということになります。

1914年にイギリスがアメリカに敗れたことで金本位制が崩れ、1944年7月に「ブレトンウッズ会議」でIMFと世界銀行の設立による世界体制ができ、「金1オンス(31.103g)は35米ドルと等しい」と決められました。つまり米ドルが唯一の金交換通貨(ドルでのみ金と交換できる)となりました。これを金ドル本位制といいますが、次第に金が引き出されアメリカの金保有率が少なくなったところで、ベトナムの戦費をまかなうために多くのドルを印刷する必要性が生じ、ついに1971年8月15日アメリカは「金とドルの交換の停止」を発表しました。「ニクソン・ショック」といいます。これ以降アメリカは金の裏付けのないドル紙幣を自由にすぎな量だけ印刷することができるようになりました。ドルが世界の共通通貨としてこれまで使われてきたのは、世界唯一の軍事大国であり経済大国であるという信頼があるためなのです。このアメリカのドル紙幣の氾濫の行きつく先が今回のサブプライムローン問題をきっかけとした100年に1度の金融不安といわれるものです。あふれ出たドル紙幣がマネーゲームを生み出し、その結果株式市場は暴落し、ドルは売られて急激な円高となりました。アメリカのドルへの不安はアメリカ国家への不信であり、そうなる信用できるものとして永遠の価値をもつ金ということになってきているのです。』

そして、その時(3/5)の株価が913円でしたが800円台から長期保有(3~5年)で買ってみようと述べました。私の知人に株はやったことない人で、金を買ってみたいという人が2人いたので900円ぐらいで買わせてみました。3/10に836円の安値がありましたが、そこから反発となって6/12には1626円となり、7/13には1164円まで下げましたが、金価格の上昇で本日(10/15)は1606円までの上昇となり、高値をうかがう動きとなっています。

### <金の高値更新とドル安・株高の関係>

先月は、アメリカでの長期金利の低下からドル安が進行し、その結果として金相場が上昇し、今月にはいつからとも6%上昇し、昨日は、1オンス=1064ドルとなって史上最高値を更新しています。金を買う時は先行き不透明のあられで、世界の基軸通貨であるドルへの信頼がゆらいでいることを示しています。ドルへの信頼がゆらいでいるのにアメリカ株高はなぜ起こっているのかという疑問がでてきます。それは、ミニバブルの状況となって行き場のない投機資金が原油、金、株式に向かっているからです。サブプライムローンに端を発する100年に1度の経済危機を回避するために、世界各国が大型の

景気対策を実施し中央銀行が金利を引き下げ、特にF R Bは0金利に近いところまで金利を下げ、量的緩和を行ったことで過剰流動性という金余りの現象となり、それによって行き場のない安価な資金が商品相場、株式相場を押し上げています。人為的なバブル相場になっているといってもよいでしょう。

ということは、この人為的なバブル相場が各国の中央銀行の出口戦略による金利の引き上げなどによって流動性の停止や縮小につながれば、市場の金利が上昇してバブルが崩壊する可能性があります。これは、今後念頭に入れておくべきことでしょう。NYダウの上昇を支えている資金が以上のような性格を持つのであれば多少上昇しても静観して次の大きな下げを待つのが株式投資で資産を築く考え方といえます。相場には、必ず上にも下にも行き過ぎがあります。上に行きすぎている時が、相場を最も強く感じる時であり、参加したとたんにそこが天井だったということになりかねません。昨日は、NYダウは△144ドルの10015ドルと1万ドルをこえてきましたが、ここからは行き過ぎのゾーンにはいってくと考えた方がよいかもしれません。

### <当面の相場の動きと投資戦術>

日経平均は、10100円～10500円台の2ヶ月近いもみあいを下げられし、10/5(月)に▲57円の9674円となって26週移動平均線を切ったものの長いもみあいの下げということからすると中途半端な位置からの戻りといえます。相場が本格的に反発するには大きく下げて信用の投げがでて上に売り物が少なくなってしまうと大きな反発となります。相場が調整色を強めた9月以降個人投資家が値頃感から押し目買いを進め10/6の東京証券取引所発表では信用買い残が今年最高水準になっています。つまり10100円～10500円台の2ヶ月近いもみあいでも上をぬけることを前提に個人投資家が信用で買ったということです。

(この間、私はネット会員の方には柴田野線の売転換によるカラ売や待ち伏せ買いを行いました)

今回、第2ポイントの9500円を割れてくる動きとなって9000円ぐらまで下げていると一気に投げが出て、この水準からならば大きな反発となっていたかもしれません。しかし、NYダウのこれまた中途半端な戻りから(総強気が多いため下げない)高値更新となっていますが、このことに関してはその理由を上述しました。

本日は、昨日のNYダウが約1年ぶりの1万ドルを回復したことで、出遅れ感の強い日本株が買われて一時△212円の10272円まで買われましたが、ドル売りの流れは変わらず円高警戒感から上値は重く大引けは△178円の10238円となりました。為替が円安にふれない限り、日経平均は10300円台では上値が押されることとなります。その為替ですが10/13(月)の90円45銭をつけて、再び円高方向にあります。88円台を切る動きとなれば昨年12月の87円19銭を試す動きとなってそこからいったんの円安という動きになる可能性があります。このレポート会員の投資戦術としては、前号の短期リバウンド狙いの銘柄を買った人は利益確定を優先し、買ってない人は次の大きな下げを待つこととなります。

※全ての情報は成果を保証するものではなく、出島式株式分析法による情報提供が目的であり、投資の最終決断は自己責任原則に基づきご自身でご判断して下さい。

## 【 柴田野線「諺」一〇八話集 】

野線継承者 柴田豊秋氏(柴田秋豊氏の長男)

～ 柴田野線「諺」108話集への思い ～

想い起こせば十九才より父に弟子入りし野線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にといい老骨に鞭打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし、資料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思ひ立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後野線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した野線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み野線の復興に取り組んだが北海道の野線屋一と揶揄され軽視されました。今日では野線は「チャート」と呼ばれているが私は野線と云う単語に愛着があり今後も野線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの一助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智慧の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出動に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思い信じている。投機、投資者は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

※このページは初めての方のために毎回記載します。柴田秋豊氏に興味がある方は自伝を漫画化したものがあります。ズバ株 HP のトップページにございます <http://www.zubakabu80.com/>

### 第二十五話 相場は隠れた材料を知る事が肝要

渋沢栄一氏が株式会社を立案し資本拡大に寄与した事は周知の通りである。明治維新後資本家は地主、先祖代々現物株券で長期的に値上がり配当を目的とし子孫に財産を引き渡し継ぐ事に貢献したが時代は変わった。今日の投資家の大半は騰落値幅の鞘が目的で目先の利益に走っている。何れの目的でも野線観測は表に出ていない隠れた材料を発見し、掘り起こして看破し便乗するのが野線観測の法則、法示であることを認識する。

### 第二十六話 野線学の奥儀、法則、法示とは

宇宙の一星座である地球の何れかで戦争、殺戮、睨み合いが続いているが此れ皆自国の利害関係が絡んでいるのが実情である。我が国日本も長い戦国時代が続き小国は大国と同盟し味方となり戦い、不利を見れば敵に寝返る人道的には許し難き行為であるが野線観測も正にその通りであり、世界の数億万人の投資家の弱肉強食の範たるものであり、天災でない限り有りあらゆる世界の情報の動きで値段が確定し、一本の陰陽線に織り込まれ積み重ねが法則として先行を指示するのが野線学である。

### 第二十七話 材料を聞いたら野線に真偽を聞け

相場が高騰してくると様々な材料を實しやかに報道機関、その他利益団体が連日報道、テレビも一般素人の投資家を出演させ煽り立てる。株式、商品相場も人気は最高潮であり今一度法則出現の真偽を確かめこの人気が間違いなくと頭を冷やすことが必要で、人気最高潮、人も我もと思った時は得てして過去の野線は売型法則が数多く出現し天井型を示唆している。今一度野線奥儀を再認識され法則、法示の重要性が解り納得するはず。



先週末は、アメリカ株高と為替の 88 円台から 89 円台後半への円安を受けて△183 円の 10016 円と 1 万円台を回復して引けました。日本が連休の間に NY ダウは高値更新となったことや先週末の終値が S Q 清算値を上回って引けたことで、本日はインテルの決算への期待もあり△60 円の 10076 円で引けました。柴田野線では 10200 円が 1 つの上値のフシですが、このまま上昇して 9/30 の 10153 円で引けると、ろあ買出現となって 10300 円台ぐらいまでの上昇は考えられます。これも NY ダウ次第ですが、NY ダウが 1 万ドルを試せばそのような動きになるかもしれません。



先週の予測では、89円を切ると9/28の安値88.215円の下ヒゲを埋める動きとなり、87円台も想定しました。そのような動きになるとドルの買い戻しで90円台回復も考えられるとしています。10/6(火)に終値88.817円と90円を切り翌日(10/7)は海外市場では一時87.997円と87円台にはいりました。そこから反発となって週末は89.84円の終値となり、90円前後に接近して終わりました。先週は想定通りの動きとなりましたが、今週は90円を回復する場面があっても上限は限定的(91円)であり、ドル買いは長く続かないとみています。